[WIP]

x86_64 アセンブリでの ライフゲームの実装

Arch B2 tatsu

親:macchan

背景

- OSやセキュリティに興味があった。
- CTFに挑戦してみた結果、バイナリ及びアセンブリを解析 する問題の意味が何度読んでもわからなかった。
- 中には、ツールを使うことで、解けるような問題もあったが、それは本質的な理解ではないと感じた。

背景

- その他有名な脆弱性、例えばバッファオーバーフローに関する説明を読んだりもしたが、ぼんやりとわかっただけで、自分で説明できる状態と言い難かった。
- 色々と勉強して行く過程で、バイナリ及びアセンブリを理解することは必須だということがわかった。

目的

- ・アセンブリを自分で書くことで、バイナリ及びOSに対する理解を深めたかった。
- x86_64アーキテクチャのアセンブリで、ライフゲームを 実装する。

手法

- ・セキュリティやOSを今後やって行く上で、その第一歩として、ライフゲームというものに挑戦する。
- コンパイラから生成されたアセンブリからのコピペはせず、 全部自分で書く。

なぜx86 64なのか

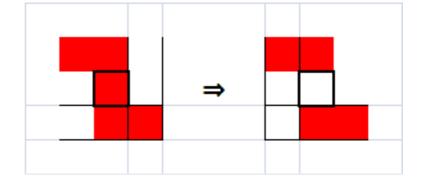
- MIPSなどの、情報が豊富なアセンブリは、今はほとんど 使われていない。
- ・x86_64は、自分も使っている身近なアーキテクチャである。
- 普段自分が生成するバイナリはx86_64のものである。
- 情報源があまり多くないので、模索しながら実装して行き たかった。

ライフゲームとは

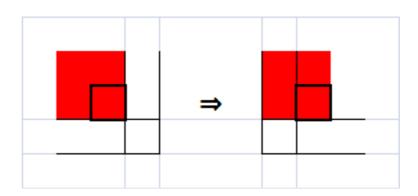
- 基盤のような格子があり、その格子一つ一つをセルと呼ぶ。
- そのセルが生きていた場合
 - ・ そのセルの回りに、2個あるいは3個生きたセルがあれば生存。
 - その他の場合は死。
- そのセルが死んでいた場合
 - そのセルの回りに、3個の生きたセルがあれば、誕生。
 - その他の場合は変化なし。

ライフゲームとは

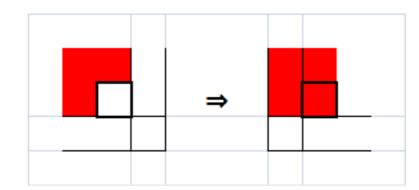
• 過密により死ぬ



生存



• 誕生



実裝環境

• OS: kali linux(debian系)

• アセンブラ: NASM version 2.13.02

• アセンブリ:約400行

手法

- Cでライフゲームを書き、ロジックを確認する。
- このコードを参考に、フルスクラッチでアセンブリを書いていく。
- 書いたコードを、nasmを用いてアセンブルし、オブジェクトファイルを生成
- Id で、データをリロケートし、実行可能な形式に変更。
- 実行

実装

Cでの実装

https://github.com/doooooooinggggg/lifegame/blob/master/lifegame.c

```
Minclude estdio.ho
#include <stdlib.t>
#include <unistd.t>
 Meline MAX_HEIGHT 54
 #define-MAX_NIDTH -- 248-
#Define ARRAY_MIDTH MAX_MIDTH + 2 /
#define ARRAY_MIDTH MAX_MIDTH + 2 /
#define LIFE_SPAN - 1888 //
#define RELATIVE_FOSITION1 prev_val[i = 1][j = 1]
#define RELATIVE_FOSITION2 prev_val[i = 1][j]
#define RELATIVE_FOSITION3 prev_val[i = 1][j + 1]
#define RELATIVE_FOSITION4 prev_val[i [j = 1]
#define RELATIVE_POSITIONS prev_val[i][j+1]
#define RELATIVE_POSITION7 prev_val[i+1][j-1]
#define RELATIVE_POSITIONS prev_val[i+1][j]
 ddefine RFLATTVE_FOSITTON9 prev_val[i + 1][j + 1]
 void-print_func(int-val ARRAY_HEIGHT] [ARRAY_MIDTh]){
....for(int-l==0;:l < ARRAY_HEIGHT;::+++(
.....for(int-j==0;:) < ARRAY_MIDTH;:j++){</pre>
       · · · · · if(·i = 0 | | ·i = ARRAY_MEIGHT - 1 | | · j = 0 | | · j = ARRAY_MIDT: - 1 | continue;
                -if(-val[i][;]-=-1-)-printf("0");
-alse-if(-val[i][i]-=-0-) printf("-");
-alse-printf("e");
     printf("un");
 void define init val(int prev val[ARRAY HEIGHT][ARRAY NIDTH]){
     ·int-flag:
     for(int i = 0; i = APWWY_HEIGHT; int[
         -- for(int j = 0; j < AFRAY_WIDTH; j++){
                continues
                -- flag -- (int)(-rand()-+-(2.0)-/-(1.0-+-RWND_HWK)-);
                prev_val[i][j] = flag:
```

アセンブリでの実装

- 必要そうな処理を考えてみたところ、
 - printf
 - 分岐
 - ・ループ
 - 配列の操作
 - 関数ジャンプ
 - sleep
- 以上を組み合わせる。

アセンブリでの実装

- 必要そうな処理を考えてみたところ、
 - printf -> システムコールのwriteを使うことで解決
- mov rax, 1 mov rdi, 1 mov rsi, off mov rdx, 1 syscall

- 分岐 -> cmp, jmpで解決
- cmp r15, 1 je print_on
- ・ループ -> **カウンタとcmpで解決**

```
·cmp·rbx,·2500
·jge·return_from_print
```

• 配列の操作 -> バイト長に気をつける

```
movzx r13, byte [next_val + rbx]
mov [prev_val + rbx], r13
```

- 関数ジャンプ -> jmp consider_next_each_gen
- sleep -> ループし、1秒おきくらいになるように調節
- ・ 以上を組み合わせる。

```
sleep:
....cmp r11, 2000000000
....jge next_loop
....nop
....nop
....nop
....inc r11
jmp sleep
```

実装

 https://github.com/doooooooinggggg/ lifegame/blob/master/lifegame.s

```
--0------00---0000------0----
0000----0----0--0--0---0---
  ---0-0-----0-0--0-----0-----0-----
      -----000-----0---0----
    -----0--0--0--0--0--0--0--0--0--0--0
-00---0---0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0
0----00----00----00-0--0--0--00----0
0-0---00----000-------0----0---000000-0
0-----0-00-0--00------0-00-0--0-0
---0-----0----0----00----00-----00-----0
-00-----000------000------000------
  -----00----00-0--0--0--00--0--00-
----00------0---0--<del>-</del>-----0--00-0------0--
---0---000---0------------0--000------
   ---0--0--0--0--0--0-0000--0-----0--
00-----0--0--0-0000-----00-----0-00--0--0-
00-----0-0-0----0-0-----00-----00-0----0
-000-----0-0-0-0-0-0-000--00-0------00--
-00-0----0-0--0------
-----00-----0000---00---00---00
----00---0-0-----0---0---0---0-0-0-000
-000--0----0-0--0-0--00
-00-000000-----0----00000-----00-----
    ---00-0---0----------0----0-00-0-00--
----000-0000-----0----0---0--0--0--00
  -----00000---0000----
```

```
^Z
[1] + 32605 suspended ./a.out

[root@kali] - [~/lifegame] - [土 2月 03, 10:06]

[$] <git:(master) × > []
```

結論と今後の展望

- 普段何気なく書いているコードが、どのようにハードウェ アに解釈され動いているかが前よりわかるようになった。
- 乱数の生成がうまくいかなかったため、この部分を訂正する。
- スタックポインタをうまく活用できなかった。
- ・春休みは、この分野の勉強を進め、組み込みOSに挑戦してみたい。

参考文献

- 「Jun's Homepage」 http://www.mztn.org/index.html
- 「原書で学ぶ64bitアセンブラ入門」
 http://warabanshi.hatenablog.com/search?
 q=%E5%8E%9F%E6%9B%B8%E3%81%A7%E5%AD%
 A6%E3%81%B6
- 「プログラミング講座2-1・ライフゲーム-まずはライフゲームって何?って話」
 https://fujori.com/access-excel-vba/enjoy-vba/programming-course-2-1/